【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第１区分
【発行日】平成24年8月2日(2012.8.2)

【公表番号】特表2012-501819(P2012-501819A)
【公表日】平成24年1月26日(2012.1.26)
【年通号数】公開・登録公報2012-004
【出願番号】特願2011-525428(P2011-525428)
【国際特許分類】
Ｂ０３Ｃ　3/66　(2006.01)
Ｂ０３Ｃ　3/40　(2006.01)
Ｂ０３Ｃ　3/41　(2006.01)
Ｂ０３Ｃ　3/47　(2006.01)
Ｂ０５Ｂ　15/04　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ０３Ｃ　3/66
Ｂ０３Ｃ　3/40　Ａ
Ｂ０３Ｃ　3/41　Ａ
Ｂ０３Ｃ　3/47
Ｂ０５Ｂ　15/04　１０４

【手続補正書】
【提出日】平成24年6月15日(2012.6.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４３】
イオン化したオーバースプレーの粒子は、２つの隣接する分離ユニット２６の接地された側方パネル３６ａ，３６ｂおよびそれらの間に延在するグリッド電極６２を通り過ぎる。グリッド電極６２と側方パネル３６ａ，３６ｂとの間に形成される電場のため、イオン化したオーバースプレーの粒子は分離ユニット２６の分離面４２ａ，４２ｂにおいて分離され、これら分離面に沿って流れる分離液によってそこで取り除かれる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
塗装施設のオーバースプレーを含んだ使用済みブース空気からラッカーオーバースプレーを分離する分離デバイスであって、
ａ）　少なくとも１つの分離面（４２ａ，４２ｂ；１４２ａ，１４２ｂ）を具備し、前記ブース空気が前記分離面に沿って導かれうるとともに、前記分離面が導電性を呈する態様で高電圧源（７４；１７４）の一極に接続されており、
さらに、
ｂ）　空気の流れの中に配列されていて、前記分離面（４２ａ，４２ｂ；１４２ａ，１４２ｂ）に関連付けられるとともに前記高電圧源（７４；１７４）の他極に接続されうる少なくとも１つの電極手段（５６；１５６）を具備する、分離デバイスにおいて、

ｃ）　異なる分離面（４２ａ，４２ｂ；１４２ａ，１４２ｂ）にそれぞれ割り当てられた、複数の電極手段（５６；１５６）と、単一でかつ同一の電極手段（５６；１５６）の複数の領域（５６Ａ，５６Ｂ，５６Ｃ）とのうちの少なくとも一方が付与されており、これらには高電圧が互いに独立して印加されうることを特徴とする、分離デバイス。

【請求項２】

複数の電極手段（５６；１５６）と、単一でかつ同一の電極手段（５６；１５６）の複数の領域（５６ａ，５６ｂ，５６ｃ）とのうちの少なくとも一方が、単一でかつ同一の高電圧源（７４；１７４）にそれぞれ接続されうることを特徴とする、請求項１に記載の分離デバイス。

【請求項３】

前記複数の電極手段（５６；１５６）のそれぞれと、単一でかつ同一の電極手段（５６；１５６）の前記複数の領域（５６ａ，５６ｂ，５６ｃ）のそれぞれとのうちの少なくとも一方に別の高電圧源（７４；１７４）が与えられる、請求項１に記載の分離デバイス。

【請求項４】

少なくとも１つの電極手段（５６；１５６）が、複数のコロナワイヤ（６８；１６８）と、独立して高電圧を印加可能な領域としての平面状のフィールド電極（６２；１６２）とを具備することを特徴とする、請求項１から３のいずれか１項に記載の分離デバイス。

【請求項５】

複数のコロナワイヤ（６８；１６８）が複数の群（６８Ａ，６８Ｂ）に細分化されていて、各群は、高電圧が独立して印加されうる前記電極手段（５６；１５６）の領域（５６Ａ，５６Ｂ，５６Ｃ）であることを特徴とする、請求項４に記載の分離デバイス。